

3-7 岩本 芳仁

『 インドネシアを知る 』 『 インドネシアのストリートチルドレン 』

学校名・名前 : 神戸市立六甲アイランド高等学校 ・ 岩本 芳仁

実践教科 : 公民(国際関係学)

指導時数 : 4時間

対象学年 : 高校2年生 対象人数 : 19人

1. カリキュラム

(1) 実践の目的

南北問題やそこから派生する世界の諸問題を学習するにあたり、日本と密接な国であるインドネシアを通して、開発途上国の現状を学ぶ。

さらに国際協力のあり方や重要性について考えるきっかけづくりとする。

(2) 授業の構成

時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1時限目 インドネシアを知る	<ul style="list-style-type: none"> ・インドネシアの地理的概要 <ul style="list-style-type: none"> * 島嶼国であること、イスラム教徒が大半を占めることなどを理解させる。 ・インドネシアの歴史 <ul style="list-style-type: none"> * かつてはオランダの植民地であったことや、これが現在の複雑な国境線になっていることなど理解させる。 ・国旗の意味するものを説明する。 ・インドネシアの産業を、日米などと比較して考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・世界地図 ・インドネシア地図 ・教材プリント
2時限目 インドネシアを知る	<ul style="list-style-type: none"> ・写真のスライドを見せながら説明。首都ジャカルタの二つの顔(旧態依然の面、近代化されている面)を伝える ・訪問地の写真や土産品を見せながら、現地の様子などを説明。 ・世界遺産であるボロブドゥール、プランバナンを紹介。 ・ODAなど、日本とインドネシアとの親密な関係を理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・写真(パワーポイント) ・インドネシアの土産(竹ペン・しおり・キーホルダーなど)
3時限目 インドネシアのストリートチルドレン	<ul style="list-style-type: none"> ・ストリートチルドレンについて知っていることを述べさせる。 ・インドネシアのストリートチルドレンの現状について写真を交えて説明。自分たちと同じ世代の青少年が置かれている現状を知るとともに、その原因を理解させる。 <ul style="list-style-type: none"> * 国際協力への姿勢、問題解決への姿勢を養うきっかけとする。 ・ペーパークラフトの写真立てや写真を見せ、授産施設の活動などを説明。 	<ul style="list-style-type: none"> ・写真(パワーポイント) ・ペーパークラフト

4時限目 ストリートチルドレンについて考える	・インドネシア以外の国々についてもストリートチルドレンの現状を説明 ・説明をうけて考えながらワークシートへの記述をする。 ・ストリートチルドレンについての課題、支援のあり方などを考えさせる	・NHKTVビデオ ・教材プリント ・ワークシート
----------------------------------	--	---------------------------------

2. 授業の詳細

1時限目 「インドネシアを知る」

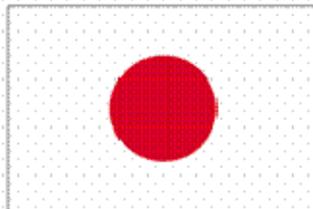
1. インドネシアの国是である「多様性のなかの統一」とは多宗教・他民族・多言語、さらに約1万4,000の島々からなる複雑な国土に暮らす人々が、いかに国家としてのまとまりを築いているかを説明する
2. インドネシア国旗を示し、その意味を説明。
 * 日章旗の意味もするところも説明し、その共通性なども伝える。

インドネシア・日本の国旗の比較



赤＝自由と勇氣
 白＝正義と純潔をあらわす

ジャワ島では古くから「赤は男性のエネルギー」、「白は女性の純潔」を表す色とする民間習俗があり、これが起源。また、赤は太陽、白は月を表す色として親しまれてきた色である。



赤＝熱誠・博愛・活気
 白＝平和・純潔・正義・平等をあらわす

「日の本」の国名にちなみ、白地に日輪をかたどった国旗である。

3. インドネシアの歴史(植民地時代)を「概略年表」で簡潔に説明

インドネシア植民地年表

- 1598 オランダ人、ファン・ネック上陸
- 1602 東インド会社設立
- 1610 ジャカルタにオランダ商館設立
 香料 コーヒー、砂糖、インド藍
- 1641 オランダの占領 ~ 植民地化
- 1800 東インド会社閉鎖
- 1814 オランダ国王を最高支配者に植民地支配復活
 「強制裁培制度」導入 (1830~)
- 1926 反オランダの民族蜂起 1ヶ月で鎮圧
- 1942 日本軍の占領
- 1945 インドネシア共和国として独立(スカルノ大統領)

* インドネシアはかつてオランダの植民地であったこと、太平洋戦争時は日本が占領し、終戦後(8月17日)に独立したことなどを伝える。

4. インドネシアの概略を説明

- ・面積...1,905,000 km²(日本の約5倍) (2005年)
1万3,677の島からなる島嶼国
- ・人口...2億2,278万人(世界第4位) (2005年)
- ・首都...ジャカルタ
- ・独立...1945年8月17日
- ・言語...インドネシア語(他250以上の言語)
- ・宗教...国民の約80%がイスラム教(信者の数が世界最大のイスラム国) (2005年)

5. 日本・アメリカ・ニュージーランドとの産業別人口比較

国名	第1次産業	第2次産業	第3次産業
インドネシア	44.3%	18.6%	37.1%
日本	4.6%	28.8%	65.6%
アメリカ	2.5%	20.8%	76.7%
ニュージーランド	8.2%	21.9%	69.8%

(2005年)

* 修学旅行でファームステイを体験し、農業国のイメージが強いニュージーランドと比較し、インドネシアの第1次産業人口の多さに注目させる。

2時限目 「インドネシアを知る」

パワーポイントのスライドで撮影した写真を示しながら説明を加え、インドネシアへの理解を深めさせる。

1. ジャカルタ...高層ビルも建ち、官庁街やデパートなどのショッピングセンターなど日本の都市と変わらない一面を持つ首都 生徒が想像する開発途上国のイメージとは違った部分
2. バイクの多さについて考えさせる
国民の大半がマイカーを所持するまでに至らない所得
* バイクも日本円にして約20万円(インドネシアでは公立学校教師の給与の10ヶ月分に匹敵する)
また、鉄道が発達しておらずバイクは交通機関の主となっている
3. 町には屋台が多いのはなぜかを考えさせる
仕事が少なく、企業に勤める労働者は少ない。すぐに現金収入が期待できる屋台を出し、日々の生活費を稼いでいる。しかも屋台は営業許可を必要としない。
4. インドネシア(ジャワ島)の世界遺産
「世界遺産」とは何かを説明
ボロブドゥールとプランバナンを紹介する

[ボロブドゥール]

- ・世界最大の大乗仏教遺跡
- ・時代...770~830年頃
- ・語源...ボロブドゥール=「丘の上の僧房」
- ・1814年 トーマス・ラッフルズ(瑛)が発見



〔プランバナン〕

- ・ヒンドゥー教寺院
- ・時代... 858～900年頃
- ・語源... プランバナン = 「たくさんの僧侶」
- ・224の石造寺院群
- ・1549年 大地震で大破



5. 日本のODA

現在、日本の最大の援助国はインドネシアであることを説明、また、なぜインドネシアへ巨額のODAがなされるのかを理解させる。

ODA 日本が最大援助国である国 (2003年 単位百万ドル)

順位	国名	金額	シェア
	インドネシア	1,141.78	73.6%
	中国	759.72	66.7%
	フィリピン	529.72	75.1%
	ベトナム	484.24	50.0%
	パキスタン	266.22	49.6%

【授業に対する生徒の反応】

首都ジャカルタのデパートや高層ビルなどは、生徒が抱くインドネシアのイメージとは、かけ離れていたようである。また、中学生が携帯電話を所持していることや就学率の高さなども意外なことのようである。

～所感～

「開発途上国」の国々に対して、その言葉からイメージするものは、現状の10～20年前の姿を想像する傾向が多い。(かつての韓国や現在の中国などもそのような傾向にあったと思う。) ジャワ島のみではあるが、インドネシアの現在の姿、最新の情報をできるだけ克明に伝えられるようにこころがけた。

3時限目 「インドネシアのストリートチルドレン」

1. ストリートチルドレンについて、生徒の予備知識を出し合わせる
2. ストリートチルドレンの生まれる背景について説明する。
3. 訪問した施設でのストリートチルドレン達との交流を写真を示しながら生徒達に伝える
インタビュー内容(「楽しみは?」「将来の夢は?」など)も活用する(概要は以下のとおり)

ストリートチルドレン授産施設

近年、増加傾向にあるストリートチルドレンに対して、収容施設、授産施設の建設が急務。

訪問した施設では9～17歳の9名が生活(訪問日は5人)。

男女別に生活(女子は別の施設に)。

- * 2006年 JICAの協力終了 45人を9グループに分け、各施設に入所しているチルドレン(ペーパーアート、バイク整備の専門学校通学など)

【1日の生活】

6時起床

7時登校

午前で学校終了

15:30 ~ 16:00 帰宅 疲れていなければ、バナナの木伐採。
(リサイクル材料として売却するため)
疲れている時は、ペーパーアートの作業。

ペーパーアート : NGO支援 = 3年間の活動後、コンサルが入り、JICA の支援へ。
バナナの皮、たまねぎ、湖の草などで試作を重ねる。

* 当初よりできばえは上々。今では、ボルネオ島まで出向き研修を行っている。
(現在は他所で作成指導から、教える立場になっている。)
ただし、百貨店に卸せるほどの商品ではなく、きちんとした販売ルートは確立されていない。



【通訳・エンドロ氏の話】

- ・ストリートチルドレンは、2000 年ごろから増えだした。
- ・施設に入っていない子どもたちの背後には、「組織」があり、物乞いで稼がされているケースも多い。
- ・食事はあてがわれるようだが、稼ぎが悪いと抜かれたり、虐待されたりで過酷。以前、抜け出そうとした子が「組織」に殺されたケースもあるらしい。)
- ・乳飲み子を抱えた女性の物乞いは、赤ん坊は実子でない場合が多い。これも「組織」下にいるようだ。

4時限目 「ストリートチルドレンについて考える」

1. インドネシアのストリートチルドレンについて、学習した内容をさらに広げて、他地域のストリートチルドレンについても考え、理解を深める。
2. ストリートチルドレンに対する課題を見だし、自分たちにもできる支援活動を考えてみる。

【授業に対する生徒の反応】

ストリートチルドレンは孤児ばかりだと思っていたようである。授産施設など支援活動はなされているが、インドネシア政府の支援は不十分であるという印象も。ストリートチルドレン達が自らの力で自立しようとする姿は、同世代の彼らにも印象深いようである。

～ 所感～

ストリートチルドレンの存在は知っているが、原因や実情については、よくわからないという生徒が多かった。

自分たちにもできる支援活動として、多くの生徒は“募金活動”をあげたが、「現状を知り、知識を広げ、人に伝えていくことも立派な支援活動である。」ということの説明したらそれにも納得の様子。

3. 成果と課題

これまでインドネシアについて学習する機会は皆無であり、生徒の大半は「暑い国」、「アジアの開発途上国」くらいのイメージしか持たなかったが、インドネシアの伸びゆく面や、逆に抱え続ける課題などを伝えられたと思う。

授業で諸外国の実情を取りあげる場合、実際に自分が足を運び、目で見、現地の方々から話を聞くということが、いかに内容の濃いものになるかと実感した。

また、戦時中、戦後における日本との密接な関係を理解することは、平和教育や国際協力などにつながるうえで、重要事項としてとらえた。

教材の扱い方やこちらの話し方によっては、インドネシアのみならず、開発途上国に対する誤った知識、偏見を生み出すことにもなりかねない。生徒たちに正確な情報を与え、問題解決の姿勢を養い、広い視野に立った国際感覚の豊かな生徒を育てることで、教師海外研修に参加した意義もあろうかと思う次第である。